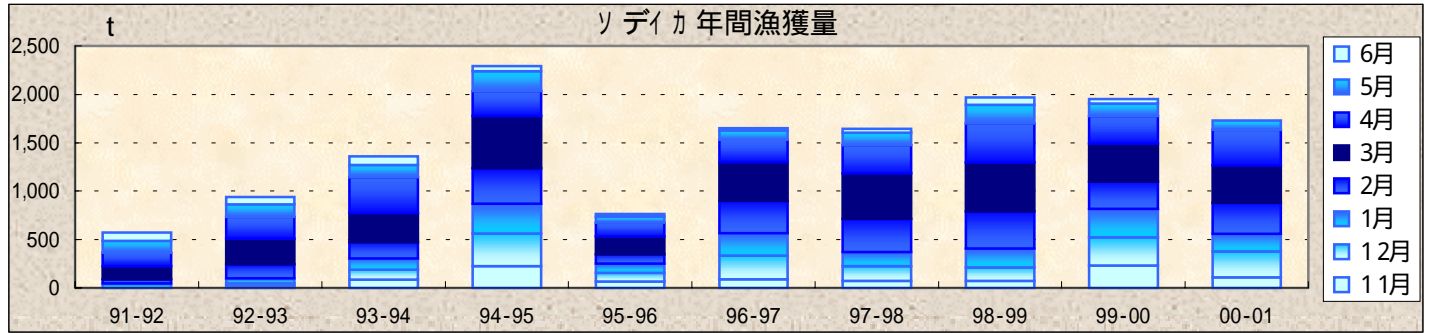


ソデイカ情報

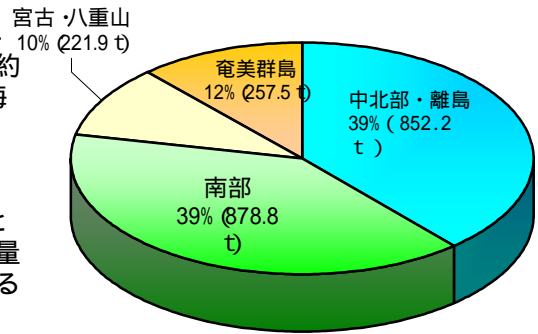
2001年3月発行

第7号

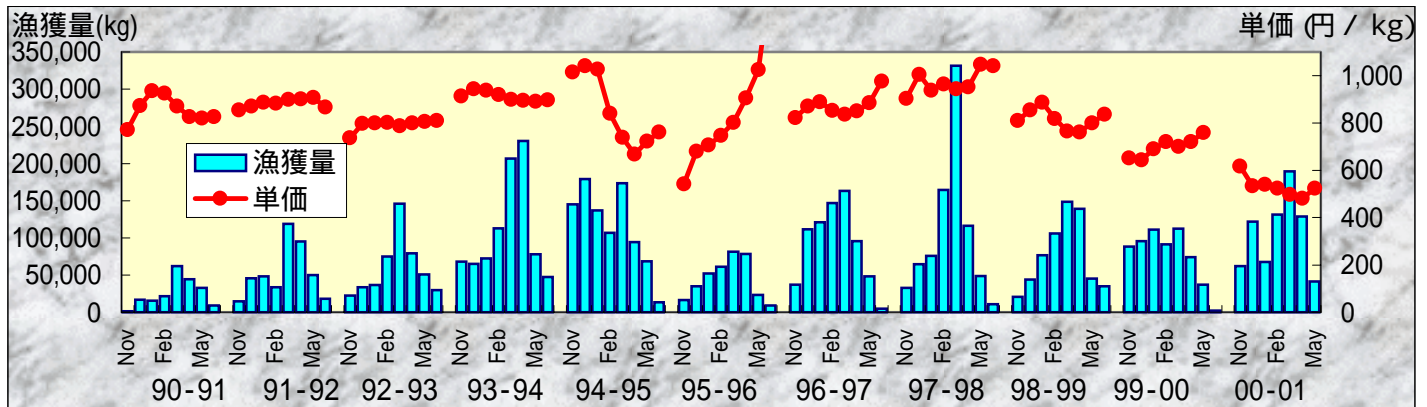
下の2つの図は、1992年から2000年における沖縄県全体のソデイカ漁獲量です。上側が月間漁獲量、下側が年間漁獲量です。99-00というのは、1999年11月から2000年6月の漁期を表します。漁獲量は、水産試験場が毎月各漁協から提供していただいている市場情報を集計したものです。市場外出荷の多いいくつかの漁協については、これも加えました。98-99期は、それまであまりソデイカを漁獲していなかった漁協も相当ソデイカを漁獲し、市場外出荷しました。この傾向は、当面変わりそうにありません。今期は出だしは好調でしたが、後半はそれほど漁獲が伸びず全体としては前年並みでした。ソデイカの漁獲量は毎年3月4月に最も多くなります。94-95期は、これまで最高の漁獲量でしたが、翌年の95-96期は漁獲量は急減しました。その後は比較的安定して推移しています。



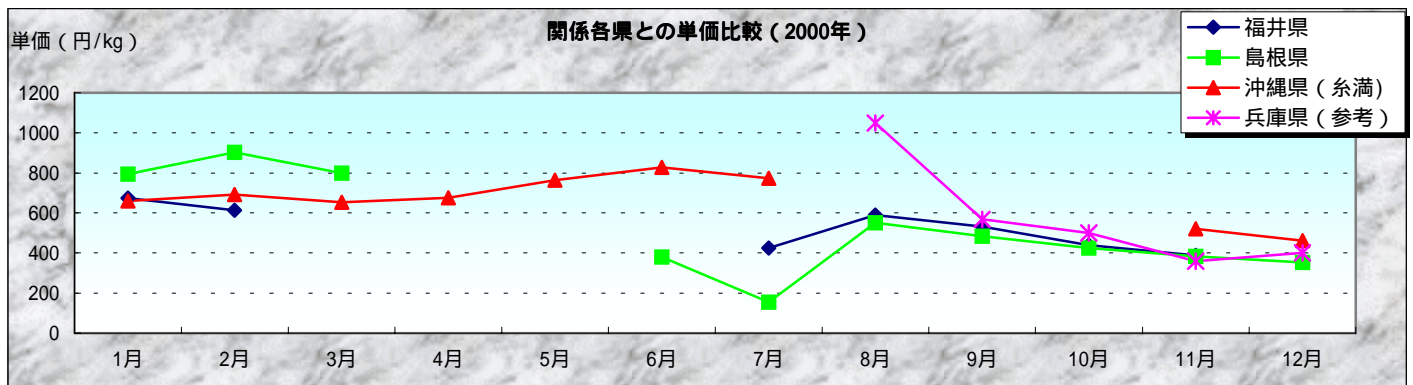
右の図は、99-00期の沖縄・奄美海域のソデイカ漁獲量約2,300tを4つ区域に分けて示しています。奄美海域では、今期は前期の漁獲の約5割増でした。各県の水産試験場からの報告によると、99年の日本海側での漁獲量は1694.6tで前年に比べて5割程度の漁獲量でした。



下の図は、1990年から2000年までの本島南部3漁協での月間漁獲量と月平均単価を示しています。ソデイカの単価は複雑に変動し、漁獲量と単純には関係していません。内地での需要や在庫状況に左右されるものと思われます。



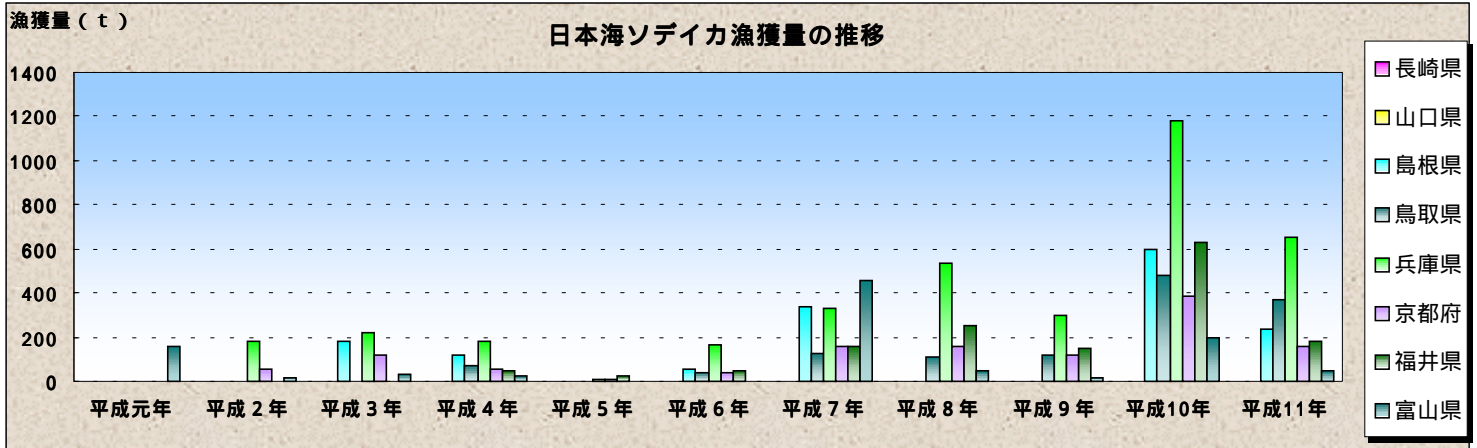
*漁獲量・単価は南部3漁協(糸満・知念・港川)の漁獲データを基に算出した。



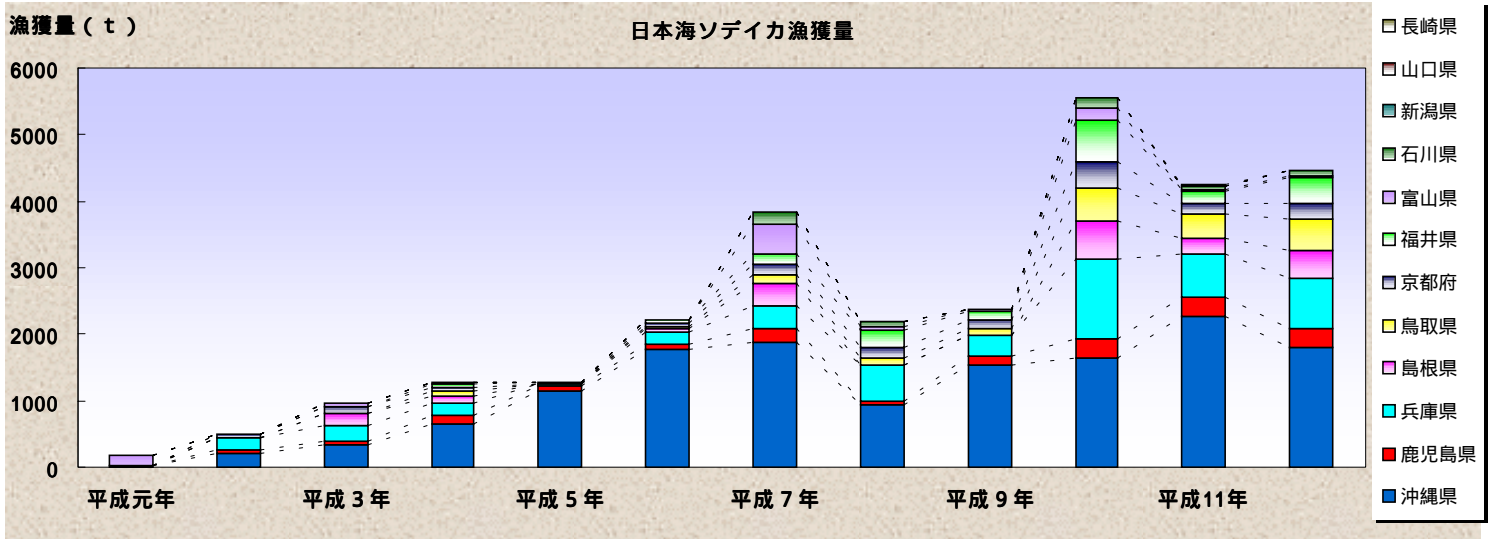
上の図は、2000年のソデイカの単価について沖縄県と関係する日本海側の県(福井・島根・兵庫)と比較したものです。日本海側のソデイカの価格状況と沖縄における価格は相互に関連があるようです。

沖縄県水産試験場

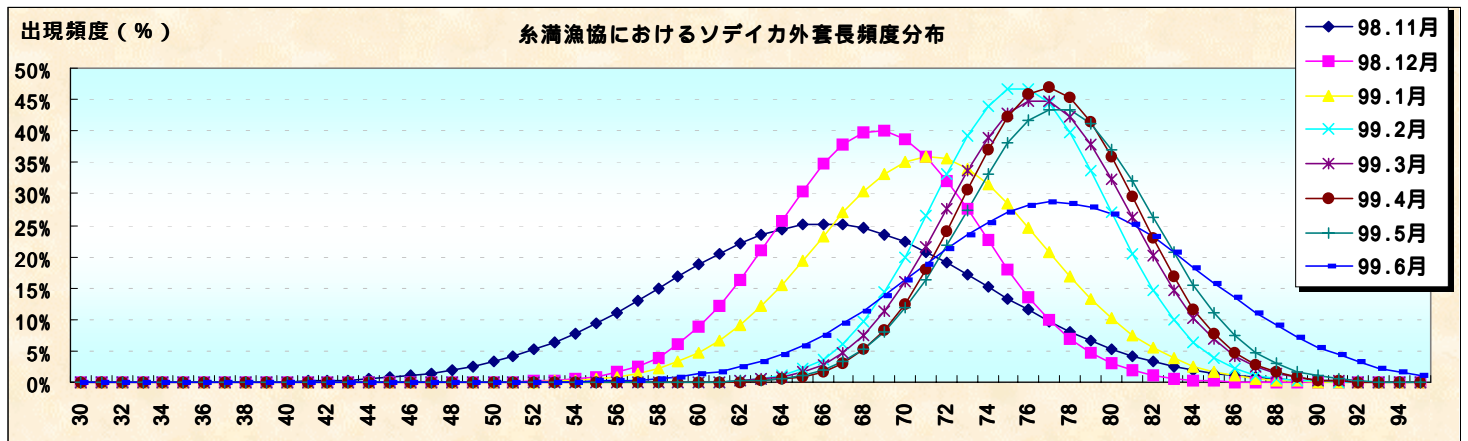
901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号
 電話 098-994-3593・3597
 ファクシミリ 098-995-2357



上の図は、日本海側各県のソデイカの漁獲量を表したグラフです。日本海側ではソデイカとして統計データが整備されていないこともあって過去の漁獲量はあまりはっきりしません。漁獲量が最も多いのは兵庫県で、平成11年（1999年）は655.1tの水揚げがありました。



上の図は、平成元年（1989年）～平成12年までのソデイカの漁獲状況について示したものです。沖縄県内で本格的な操業が始まったのは、1990年代に入ってからです。平成10年には、日本海側で3610.5tの水揚げを記録し、全体でも5549.3tの水揚げがありました。



上に図は、糸満漁協におけるソデイカ外套長の頻度分布を表したものです。漁期始めの11月と漁期の終わりで産卵期に入る6月の漁獲は少ないため分布が広範囲になっています。漁期に入り順調に生育し、2月にはある程度のサイズに成長しそれ以降はほぼ同様の頻度分布を示しています。

*漁獲データは、鹿児島・島根・鳥取・兵庫・京都・福井・富山・石川・新潟の各水産試験場のデータ提供によるものである。